

# 鹿児島県の特別支援教育の現状

鹿児島県特別支援教育研究会

会長 喜岡 達也

## 1 特別支援学校等の設置状況

区分 障害種別	幼児・児童生徒数					
	幼稚部	小学部	中学部	高等部	訪問・専攻	計
視覚障害	0	6	5	4	10	25
聴覚障害	11	14	8	4	0	37
知的障害（高特支）	0	0	0	90	0	90
肢体不自由（皆与志）	0	2	1	0	5	8
知的・肢体不自由	0	969	588	729	76	2362
知・肢・病（指宿）	0	30	32	23	1	86
病弱・肢体（加治木）	0	20	10	15	6	51
計	11	1041	644	865	98	2659

知的障害（附属特支）	0	18	18	22	0	58
------------	---	----	----	----	---	----

## 2 特別支援学級の概要

	小学校		中学校		計	
	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	児童生徒数
知的障害	588	2843	228	1072	816	3915
肢体不自由	40	49	13	14	53	63
病弱・身体虚弱	29	35	5	6	34	41
難聴	16	19	8	10	24	29
弱視	3	3	0	0	3	3
自閉症・情緒障害	720	3684	236	1101	956	4785
計（延べ）	1396	6633	490	2203	1886	8836
設置校数 （県全体）	406校：83% （489校）		172校：80.8% （213校）		578校：82.3% （702校）	

## 3 特別支援教育に関する施策（令和5年度鹿児島県の施策概要より）

- (1) 障害者基本法や障害者差別解消法、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の趣旨を踏まえて、障害のある幼児児童生徒に対する正しい認識を図るとともに、相談・支援体制の更なる充実に努める。
- (2) 移行期の学校間連携や、雇用先との連携を充実することで、就学前から学校卒業後まで、一貫した、切れ目ない支援がなされることに努める。
- (3) 障害のある児童生徒の教育的ニーズに最も的確に応える指導・支援の充実に努めるため、交流および共同学習の推進や、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校の多様な学びの場の充実に努める。

- (4) 教職員の特別支援教育に関する専門性の向上に努めるとともに、地域や関係機関等との連携を強化した支援体制の推進と、離島における特別支援教育の充実を図る。

#### 4 研究会の活動状況

##### (1) 研究主題

「共に新しい時代を築く力を育む特別支援教育の推進」

～子供一人一人の学びを支え、学びの連続性を推進する特別支援を目指して～

##### (2) 研究方針

ア 特別支援教育の有する諸問題に対し、全国の動向や社会の要請に対処しながら、各地区研究会や特別支援学校の会員が協力して課題解決への共同研究を推進する。

イ 本会の活動を通して、特別支援教育に対する理解と社会啓発を図る。

ウ 会員が相互に研修を深めることにより、一人一人の専門性の向上を図る。

エ 関係機関（教育委員会、PTA、育成会、医療、福祉、労働、大学、高校、幼稚園、保育園等）と連携して研究を推進する。

##### (3) 主な活動計画

期 日	主 な 行 事
5月20日（土）	第1回評議員会・理事会合同会及び総会
8月3日（木）・4日（金）	夏季研修会 講師：野村真一先生（関西学院大学附属小） 松久眞実先生（桃山学院教育大学） 川上康則先生（杉並区立済美養護学校）
10月27日（金）	第71回鹿児島県特別支援教育研究大会川辺大会 南九州市立大丸小学校・南さつま市立加世田中学校・ 県立南薩特別支援学校・南さつま市総合保健福祉セン ターふれあいかせだ
10月19日（木）・20日（金）	第62回全特連全国大会徳島大会
12月1日（金）	九特連第57回研究大会福岡大会 【分科会発表】第5分科会・第6分科会
1月5日（金）	冬季研修会
2月10日	第2回評議員会・理事会合同会

#### 5 課題

特別支援学級等の増加で会員の研修へのニーズが高まる中、各種研修会の在り方を見直す必要がある。基本的には「ハイブリッド方式」での開催として、より多くの会員が参加しやすい形式をとっていきたい。また、予算執行の在り方や、事務局の業務の改善などにも取り組む必要がある。各地区での研修、とりわけ研修に参加しにくい離島や遠隔地の研修の充実に努めるとともに、役員の研修機会を確保し、それを会員へ還元していくシステムの構築を図っていく。事務局員の業務改善を図るため、ICT機器の整備や業務の外部委託なども進めていきたい。